

公衆衛生学 (リハビリテーション科学部)

[講義] 第2学年～第3学年 後期 選択 1単位

《担当者名》 松岡 紘史 (歯学部) mazun@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

公衆衛生学は健康に基礎をおいた保健科学の一領域であり、将来理学療法士として医療の分野で指導的立場になろうとする者が身につけるべき素養であり、必須の学科目である。この知識および技術の基礎を理解、習得し、あわせて人類の健康と福祉の向上に寄与する指導者としての責任感と社会性を身につけることが目的である。

【学修目標】

一般目標

高齢社会の到来と生活習慣病に対する理解を前提として、公衆衛生学やヘルスプロモーションの重要性を理解する。

行動目標

1. 個人、集団の両面から疾病予防、健康増進を図るための知識を述べ、技術を適用する。
2. 保健指導（健康教育）の専門家としての立場からの教育・指導を行う。
3. 地域や職場におけるヘルスプロモーション活動の強力なリーダーシップを示す。
4. なぜ理学療法士にとって公衆衛生が必要なのかについて述べる。
5. パブリックヘルスマインドについて説明する。

到達目標

理学療法士として、障害に対するリハビリテーションの担い手となるだけでなく、人が生きる全体像をとらえる視点を持ち、予防の概念に基づき、健康増進へ貢献できる医療人となる。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【ディプロマポリシー（学位授与方針）との関連】

DP3. データサイエンティストとして、社会の変化に関心を持ち、人々の新たなニーズに創造的に対応できるように生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

DP5. 複雑化する医療・保健・看護・福祉・心理の現場での医療専門職とのコミュニケーションを通して多職種で協働し、データサイエンティストとしての専門性を発揮する姿勢を身につけている。